



毎日が「変化」の連続！ 自分自身の成長を実感しています



きっかけは？

理学療法士として医療機関で働いていたので、介護は身近なものでした。父が若年性認知症と診断されたことから介護が始まり、病状が進行すると特別養護老人ホームへ入所することになりました。そうした中で、「住み慣れた地域で暮らしたい」という思いを支える介護の仕事に魅力を感じ、転職を決断しました。



一緒に涙を流した経験が後押しに

認知症の父を施設に任せることを決断したとき、実は後ろめたい気持ちもありました。でも職員の皆さんがそれまでの母や私の労をねぎらってください、一緒に涙を流してくれる姿を見て「この施設にお願いしてよかった」と安心して父を託すことができました。このような体験が、介護業界に踏み出す後押しとなったのです。

現在、ケアマネジャーとして居宅介護支援事業所で勤務するかたわら、理学療法士の経験も活かしています。デイサービスの運営責任者として運営の管理や提供している機能訓練への助言を行うほか、地域包括支

ある1日

- ▼ 8:30 出勤。1日の予定と前日のデイサービスの運営状況を確認。
- ▼ 9:00 デイサービスのご利用者の様子や機能訓練の実施状況を確認後、ケアマネジャーとしてご利用者のケアプランの作成や提供されるサービスの調整。
- ▼ 11:00 居宅介護支援事業所のご利用者宅へ訪問。現状の生活状況やサービスが適切に実施されているか確認。
- ▼ 12:00 事業所に戻り休憩。
- ▼ 13:00 訪問業務を再開。サービス内容の変更が必要となる場合は、各サービス事業所の皆さんがご利用者宅に集まり、今後の生活や必要なサービスについて話し合う会議に参加することもある。
- ▼ 15:00 事業所に戻り、ミーティングや職員の面談。
- ▼ 16:00 1日の業務の記録。
- ▼ 17:30 退勤



管理者より

分からないことはこまめにちゃんと質問してくれますし、逆にリハビリ援助の相談に乗ってもらうこともあります。リハビリ業務とケアマネジャー業務の兼任は負担が大きいため、互いに助け合っている環境が理想ですね。相談しやすい職場を心がけ、一人で悩まず一緒に考えて解決できる関係性を大切にしています。

休日は都内の下町散策や食べ歩き、デイキャンプなど。一番の楽しみは海外旅行ですが、最近は折りたたみ自転車を持って国内旅行に出かけ、観光地を自転車でめぐって楽しんでいます。

My Private Time

援センターから地域住民に向けた介護予防に関する講話や体操指導を依頼されることもあります。

介護は人と人との絆を深める

今でもまだまだ対処しきれないこともありますが、職場の上司・先輩や、区内の事業所の方が優しくサポートをしてくださるので、安心して仕事に取り組んでいます。働き始めた当初は介護保険制度にのっとって業務を行う必要があることから、制度を理解しながら実務を覚えていくことが大変でした。制度の確認を繰り返し行い、情報を収集したファイルや業務の手順書を作成して使っていました。

ご利用者から「身内も介護が必要になり困っているので担当のケアマネジャーになってほしい」とご依頼をいただくこともありました。1年目だった私を信頼してご家族の担当を任せていただいたことがうれしく、自信を持つことができました。

介護に関わる職員は、ご利用者やその家族にとって欠かせない存在です。私も、親の介護を通して介護職員の皆さんに励まされ、何度も救われました。介護はその人が生きていくことを肯定し、人と人との絆を深める営みであると感じています。人を大切に想い、チームで協力して介護に取り組む経験は、自分自身をずっと大きく成長させ、豊かな人生を歩む一助になると思います。